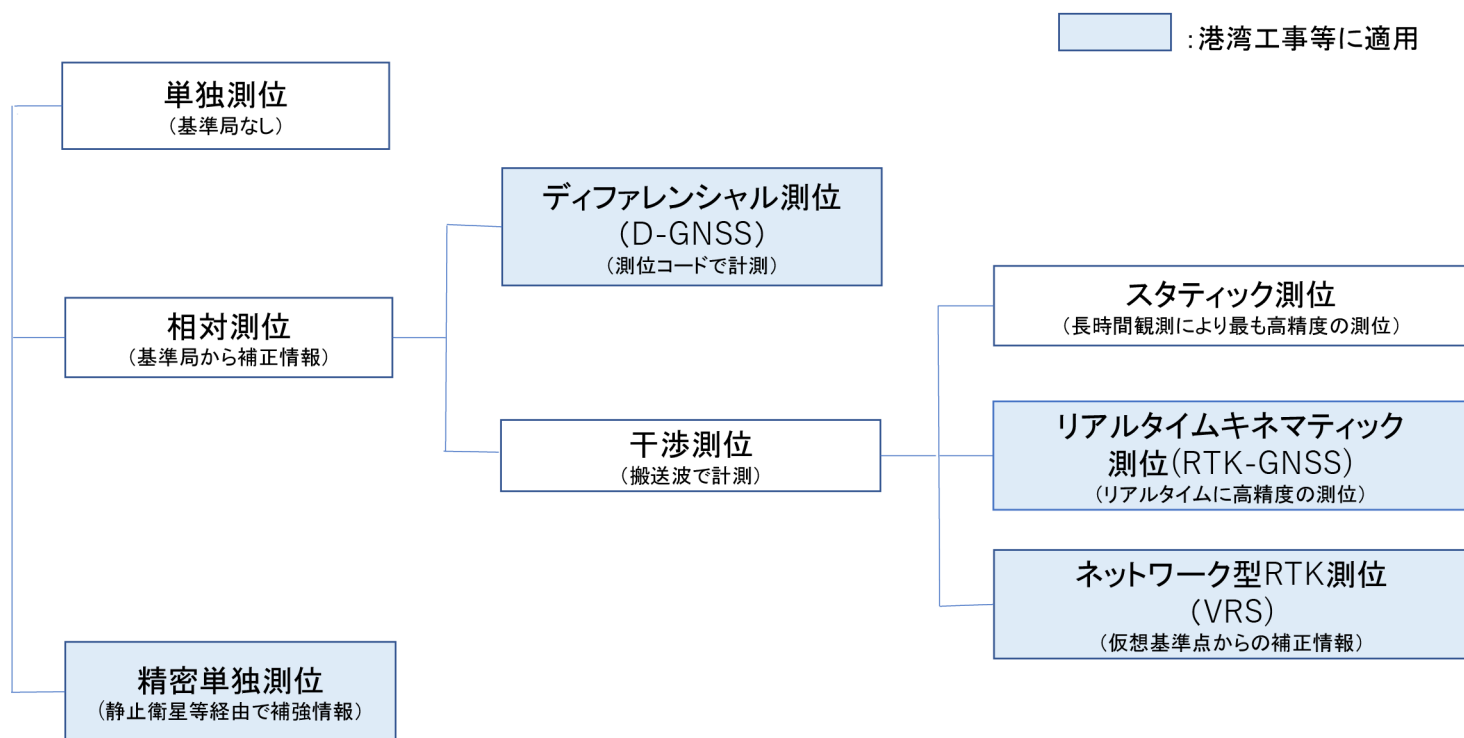


港湾工事等におけるGNSS測位方式



港湾工事等におけるGNSS測位方式の比較

測位方式	概要	測位精度	測位の安定性	港湾工事等への適用
ディファレンシャル測位	基準局からの補正情報を利用。 海上保安庁D-GPSは廃止、SBAS等が利用できる。	50cm～数m程度	基準局を使用するため確実性・安定性に優れる。	さほど高い精度が求められない工種等で使用される。
リアルタイムキネマティック測位	基準局からの補正情報を利用。 GPS機構の基準局と特定小電力無線によるローカル基準局が普及。	2cm程度	基準局を使用するため確実性・安定性に優れる。垂直方向の精度も高い。	利用エリアは基準局周辺。利用実績も多く、測位精度、安定性に最も優れる。
ネットワーク型RTK測位 (VRS)	国土地理院の電子基準点を利用して仮想基準点を設定し、携帯電話網により補正情報を送信。	数cm程度	仮想基準点の作成条件により精度にばらつき、垂直方向は誤差を含む。海上では電子基準点網の外側で精度が保証されない場合があり、通信遮断等の懸念。	機器等が簡素で、短期間の利用、基準局設置が困難な場合等に有効。
精密単独測位	衛星からの補強情報により精密な単独測位を実施。	数cm～十数cm程度	移動体、垂直方向では精度の低下。補正データ更新間隔が長く、初期化時間等に課題。	広域で利用でき、基準局の電波が届かない洋上等で有効。